

施策の進捗管理シート

令和 7 年度

総合 体系 計画	分野	1	第 1 章	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち	施策統括課	水産振興課
	施策No.	6	施策名	特色ある水産業の振興	課長名 (施策統括責任)	山田 博幸
	関係課	水産振興課				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	水産業者の所得が確保され、安定した経営がなされている。
取組方針	地域ブランド「佐賀海苔」の販路拡大に取り組みます。また、漁協と連携し、漁業者の経営の安定化を図るとともに、有明海の漁場環境の保全に取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）*人や自然資源等	水産業者					
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	佐賀市の水産資源を活かして新たな賑わいと活力を創出する水産業者を育成していく。					
成果指標 A						単位
漁業生産額						億円
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績
169.7	169.9 169.3	170.1 146.6	170.3 174.7	170.5 135.8	170.7 178.5	170.9 179.0

年度	計画	実績
基準(H30)	170.0	170.0
R1	170.0	169.3
R2	170.0	146.6
R3	170.0	174.7
R4	170.0	135.8
R5	170.0	178.5
目標(R6)	170.9	179.0

3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	47.4%	49.5%	↑
ある程度重要である	40.0%	39.2%	↓
あまり重要ではない	4.8%	5.2%	↑
重要ではない	0.6%	0.5%	↓
順位	16/36位	12/36位	↑

施策の満足度	前回	今回	
満足している	2.5%	2.2%	↓
どちらかといえば満足	40.3%	43.1%	↑
どちらかといえば不満	33.2%	33.5%	↑
不満である	6.5%	5.3%	↓
順位	28/36位	31/36位	↓

4. これまでの取組・成果

佐賀市の漁業生産額のうちほとんどを占めるノリ養殖業等の水産業に携わる漁家の所得が確保され、安定した経営がなされるよう漁協と連携し「佐賀海苔」の販路拡大や有明海の漁場環境の保全、漁港の環境整備に取り組んできた。

併せて、漁業就業者の減少及び高齢化問題の解決策として担い手の育成と確保、生産コスト削減・労働時間短縮等のための施設整備支援をしてきた。

令和3年度まではノリ生産枚数・生産額共に19年連続日本一を達成した。令和4年度から海況の悪化によりノリ生産枚数が減少したが、平均単価が上昇し、結果としてノリ生産額は目標値を上回った。

5. 指標の達成状況に関する分析

コロナ禍により令和2年度から様々なイベント等の中止で新たな販路拡大には繋がられなかった。漁協や関係機関と連携しながら計画的な浚渫や共同利用施設整備等による経営の効率化を図り、担い手の育成と確保等を行うことで、令和3年度まではノリ生産枚数・ノリ生産額共に19季連続、目標値の日本一を達成することができた。

令和4年度から令和6年度は海況悪化に伴い生産枚数が激減し、ノリ生産額も目標値である日本一は逃し全国2位の結果となった。

6. 今後の方向性（第3次佐賀市総合計画への反映など）

新たな取組みである、採苗方式変更への支援と新技術の施肥への支援を実施し、有明海の海水温上昇と栄養塩不足の課題解決を行う。

漁協が行う新方式での海底耕耘への支援、新規の航路浚渫、新規箇所の作滞に着手し、海況改善への取り組みを拡充していく。

そのほか、漁港の改修工事を行うことで漁港の機能を向上させ、安定したノリの生産枚数を確保することで、目標値であるノリ生産枚数及びノリ生産額の日本一を奪還し、水産業者の経営の安定化を図っていく。